

月 刊



湖国が滋る・水と緑の街づくり

令和元年8月1日発行 通巻283号
 昭和40年8月21日第3種郵便物認可
 発行／公益社団法人 滋賀県建築士会
 〒520-0801
 滋賀県大津市におの浜1-1-18 建設会館3F
 TEL077-522-1615 / FAX077-523-1602

URL : <http://www.kentikushikai.jp/> mail : shiga-sa@mx.bw.dream.jp

C O N T E N T S

- ・新任の挨拶 2
- ・退任の挨拶 3
- ・野球同好会 4
滋賀県建設界野球大会出場のお知らせ
- ・まちづくり委員会 4
第13回「建築士の日」 事業報告
- ・地域貢献活動センター
H30年度助成事業報告 5
- ・女性委員会 6
令和元年第29回
全国女性建築士連絡協議会 参加報告
- ・ポリテクカレッジからのお知らせ .. 8
- ・地区別会員数
- ・8月の暦
- ・滋賀 万葉の旅 第3回

砂防百年記念碑について



田上公園「砂防百年」記念碑側面（大津市内）

万葉集 巻1-50 藤原宮之役民作歌

「・・・石走る^{いはばし}近江^{あふみ}の国の衣手^{くに}の 田上山^{たなかみ}の真木^{まき}さく檜^ひのつまでを
 もののふの八十字^や治川^{そうちがは}に 玉藻^{たまも}なす浮かべ流せれ・・・」

この歌は藤原宮の労役に従事した民の作った歌で、古来良材の産地とされる近江の国の田上山で伐採された檜の荒削りの木材を宇治川に浮かべ流して、藤原宮の建設現場まで運ばれたという当時の水上交通の様子が表現されています。

特別史跡 藤原宮跡（ふじわらきゅうせき）：奈良県橿原氏醍醐町

新任の挨拶



副会長 矢場 義章（やば よしあき）

この度、令和元年度通常総会役員改選におきまして、副会長に就任することとなりました矢場です。平成27年度から二期四年間専務理事を務めさせていただき、理事各位・会員皆様のご協力より大役を全うすることができましたこと厚く御礼申し上げます。今年度は、理事34名の内13名が新任という体制で事業運営を執行することとなりました。副会長として、微力ながら次世代を担う建築士の育成・世代交代の基盤づくり・建築士会の活性化に努める所存です。皆様方のご支援ご協力をお願い申し上げ、新任の挨拶とさせていただきます。



副会長 山本 良信（やまもと よしのぶ）

今期新たに副会長を拝命いたしました山本良信です。
二期4年間、常務理事を受け持ち、これといった本会での責務を果たせたかは、自分としては疑問ではありますが、新たな副会長という重責に身の引き締まる思いでいっぱいです。私の宝は建築士会に入り、沢山の方々に出会え、そして支えて下さったことであります。今後はこの経験を少しでも会員の皆様にお返しし、公益社団法人としての建築士会に、微力ながらも貢献したいと考えております。どうか皆様方の益々のご支援ご協力を宜しく願いたします。



副会長 山本 裕信（やまもと ひろのぶ）

令和の時代を迎え、最初の総会におきまして、副会長の大役を賜りました、山本裕信と申します。
私は、滋賀県職員として、これまで様々な場面で建築士会の皆様のご協力をいただきながら、建築行政に取り組んでまいりました。今回、建築士会の一員として、皆様とご一緒させていただけることを大変光栄に存じているところです。県職員としての制約があり、自分自身としても菌痒いところはありませんが、皆様と共に活動する機会を楽しみながら、取り組んでまいりたいと考えております。
皆様方のご指導、ご鞭撻をお願いして、新任の挨拶とさせていただきます。



常務理事 竹田 久志（たけだ ひさし）

今期より、常務理事を拝命し執行部の末席に就かせて頂く事となりました。
これまで、甲賀地区、情報広報、HM支援委員会で委員各位のご協力により何とか職務にあたらせて頂いておりました。そのような私に常務理事の大役が務まるのか大変不安な気持ちでありますが、今後は、伝統ある建築士会の執行部役員として本会発展のために誠に微力ではありますが努力してまいります所存であります。現在の建築士会は社会の要請に応えつつ、若い建築士の加入拡大や魅力のある会の創造が求められております。先輩諸兄と共にこの課題に取り組まさせていただきます。皆様のご指導よろしくお願い申し上げます。



青年委員長 福原 裕人（ふくはら ひろひと）

今年度より、本田現相談役からバトンを受け取り青年委員長を務めることとなりました彦根地区の福原です。今まで培われてきた運営方針や活動内容を継承しつつ、先駆けた試みにも前向きな姿勢で取り組んでいきたいと考えております。今期、青年委員会では『ライフシフト』というテーマを掲げています。時代の転換期を意識し、個々の無形資産を形成できる事業を展開したいと考えています。ご期待にそうべく建築士会の発展に最善を尽くす覚悟ですので、これまでと同様に青年委員会を温かく見守って頂き、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



女性委員長 河島 美智子（かわしま みちこ）

この度、女性委員会委員長を務めます河島です。微力ではございますが、諸先輩が重ねてきた軌跡を一步前進させられる様務めて参ります。前期は「滋賀を知る」をテーマとして広い視野を持って活動をおこなってきました。滋賀の魅力は奥深く、まだまだ学ぶ事が多くある為、今期もこのテーマを引継ぎ、活動して行きたいと思います。建築に留まらず、歴史や暮らしからも学び、地域の人達との交流を深め、共に地域活性化へ繋がる活動を探してみたいと思っております。また、来年は女性委員会30周年を迎えます。この節目の年を女性委員会らしい対応が出来るように準備を始めたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



大津地区委員長 木村 敏（きむら さとし）

大津地域会便り「窓163号」が先日発行されました。「163」という数字にずっしりとした歴史を感じました。数年前に「窓」の編集長をしていたころ、バックナンバーを遡って読んだことがあります。現在は青色が基調のデザインですが、ずっと以前は赤色でサイズはB5でした。その時々活動の熱量に圧倒され、かなわないと感じました。
新しい年度が始まりました。活動内容は以前もこれからも変わりありませんが、入会して間もない会員さんにとってより参加しやすい会となるよう、工夫を重ねていきたいと役員で話し合っています。引き続き大津地区をよろしくお願いいたします。



湖南地区委員長 横江 良之（よこえ よしゆき）

この度、湖南地区委員会 委員長（湖南地域会代表）に就任いたしました横江良之です。
微力ながら建築士会を盛り上げていきたいと思っております。
特に湖南地域会の事業は、楽しくやって行きたいと思っております。
会員皆様のご理解とご協力賜りますようよろしくお願い致します。



湖東地区委員長 久保田 正利（くぼた まさとし）

この度 湖東地区委員長を拝命いたしました久保田正利です。令和と言う新しい時代の出発として、その責務の重大さを痛感しております。
今日まで地区委員長を務められてこれました諸先輩方の功績を引き継げられる様に、若い世代と力を合わせ、建築士の資質向上のため活発な事業を計画し、会員の増強にも繋げていきたいと思っております。何分微力ではありますが、建築士会発展の一助となる様に誠心誠意努力いたす所存でありますので、何卒一層のご指導ご鞭撻を賜ります様にお願い申し上げます。

退任の挨拶



副会長 伊藤 光男（いとう みつお）

去る5月の総会にて副会長を退任いたしました海藤会長時代に青年部長、広報委員長を拝命し、千葉会長の時に副会長を命じられ、山本会長就任以来、副会長を続けさせていただき、本年退任となりました。振り返ってみると、大変長い間、会長のご信任を得て、副会長職を与えられたにも拘らず、士会にも、会長へもお役にたてた覚えがなく、理事会等で意見、異見ばかり言っていたようなことを思い出しております。

長期にわたる在任中、お役に立たないながらも、無事にすごせましたのも、各役員の皆様の暖かいご友情、ご支援のおかげと感謝申し上げます。

私共が退任し、新しい執行部が誕生しました。滋賀士会への熱い思いの方々です。滋賀の建築のため、会員のため益々の活動がなされていくことと、ご期待します。

運転免許は返上するかも知れませんが、建築士資格の返上はないでしょう。滋賀士会、湖北地域会の一員として滋賀士会の運動、活動をヒソカに応援していく所存です。本当にありがとうございました。



副会長 杉江 文雄（すぎえ ふみお）

平成29年に副会長のご指名をいただきましたが、翌年に体調を崩し、療養生活を余儀なくされ、今般退任させて頂くこととなりました。

短い期間ではありましたが、その間HM支援委員会 竹田委員長、まちづくり委員会 吉居委員長をはじめ、各委員の皆様には色々とお世話になり誠に有難うございました。

今後とも（公社）滋賀県建築士会の発展と会員の皆様のご活躍をお祈り申し上げまして退任の挨拶とさせていただきます。



副会長 西村 利寿（にしむら としひさ）

一年間という短い期間ではございましたが、平成最後の年を皆様と一緒に活動させていただきまして、厚く御礼申し上げます。

昭和最後の年に建築士となったものの、平成の時代の多くを非建築士として過ごしておりましたが、平成最後の年は、自分が建築士であること、建築士会の一員であることに、喜びと誇りを強く感じる一年となりました。

令和の時代においては、既存の組織やシステムの変革がこれまで以上に必要になると思いますが、これまで培ってきた「伝統の力」に「若い力」と「女性の力」を融合させ、建築士会が次代に向かって益々発展されることを期待しています。



青年委員長 本田 真司（ほんだ しんじ）

平成最後の青年委員長としての2年間が終えました。5人の副委員長・常任に支えられ、数多くの事業を実施させていただきました。180名もの参加を頂いた谷尻誠氏の講演会、小学6年生に建築の楽しさを教える紙の力事業、弁護士と一緒に安全安全な家づくりを伝えるセミナー、そして地区別対抗ソフトボール大会は、特に思い出に残っています。事業1つ1つが初めての体験で、試行錯誤しながら、青年委員全員で取り組んだことが、今大きな自信になっています。

2年間多くの方々に応援していただきました。お世話になったすべての皆さんに感謝の気持ちを申し上げ、次の福原委員長を筆頭に、時代の先頭に立つ青年委員会をこれからも応援します。



女性委員長 市川 真理（いちかわ まり）

平成を締めくくる29年度・30年度に女性委員会委員長を務めさせて頂いたことはたいへん光栄に思っています。平成2年創立の女性委員会、諸先輩方の思いを継承しつつ、求められる建築士とは何かを模索しながら活動を続けてきました。この2年間は『滋賀を知る』をテーマとし、DoシリーズはNo.74-No.79と6回開催させて頂き、事業に関わる大勢の皆さまのお力とご協力を賜りました。そして出会いの数だけ世界が広がりました。また、建築士会PRと会員親睦を目的として継続参加してきた『びわこペーロン』。男女混合の部に参戦することで、老若男女の会員が選手として応援団としてご家族と同伴で参加して頂けるようにしました。継続して参加してきたことにより建築士会の認知度も上がり、ペーロン会場では声を掛けて頂きました。

多くの皆さんに支えられ、助けて頂き、お知恵を拝借して活動させて頂いた2年間でした。本当にありがとうございました。そして、今後とも女性委員会をよろしく願いいたします。



大津地区委員長 森川 和彦（もりかわ かずひこ）

この度は皆様のご協力を得て無事に大役を終えることができました。感謝を申し上げたいと思います。昨今は会運営のむづかしさもありながら異常気象と災害、持続可能な都市の在り方、障害を持っている人の多様化など。我々建築士が取り組まなければならないと思う事柄が多くあるように思います。そのことを思うと少し心残りではありますが、どの時代においてもその時代を作ってきたのは若者でありこれからもそうだと私は思っています。そして私を含めたそれ以上生きてきたものは後方から見守り支援していく。それでいいのではないかと考えています。これらの若者に期待し見守り、そしてこれまで私に関わっていただいた方々にあらためて感謝を申し上げたいと思います。ありがとうございました。



湖南地区委員長 西村 学（にしむら まなぶ）

平成27年度より湖南地区委員長を2期4年務めさせていただきました。思えばあっという間に過ぎた四年でした。私たちは一人ひとりが建築士であり、別々の仕事をもっており、日々、それぞれの生活をしている中で、建築士会という団体を活動させていただいております。そういった事業・活動を通して、個々のつながりができて、また輪が広がり、見識も増え、人間としてさらに少しだけですが成長できたと我が身に感じているところでございます。至らぬことも多分にあったと思いますが、建築士会の皆様には本当にお世話になりまして、心より感謝を申しあげます。本当にありがとうございました。これからは、一会員として、微力ではございますが少しでも、お役に立てたらと思っています。

最後になりましたが、滋賀県建築士会が、これからもますます発展されることを祈念いたしまして退任の言葉とさせていただきます。



湖東地区委員長 松宮 貢（まつみや みつぐ）

任期の最終年としては、特にこれといったことは出来ませんでした。いままで地区会員の皆様には、寛容にご支援頂いた事に感謝しています。委員長としては2期4年でしたが、その前には常任幹事や地区幹事で10年近く、湖東地区の幹事として関わらせて頂き、いろいろと勉強させて頂いた事に感謝しています。一区切りついた形ではありますが、今後も建築士会に積極的に協力していきたいと思っています。次年度からはまた新しい委員長のもと、また新しい湖東地区委員会にご期待、ご支援をお願いいたします。

8月31日(土)から開催される第56回滋賀県建設界野球大会に建築士会野球同好会も出場します。この大会に向けてまだ寒い時期から練習を重ねてきたので、今年は上位進出も目指せる位置にきたかもしれません。応援よろしくお願いします。

開催場所：皇子山球場 大津市御陵町4-1

開催日時：8月31日(土) 9:00~開会式



昨年の開会式



強力な打線



緊張の守備

開催日時：令和元年6月29日(土) 10:00~12:00

開催場所：道の駅「藤樹の里あどがわ」

第13回の開催となる本事業は高島地区内の道の駅「藤樹の里あどがわ」で開催しました。PR用配布物の「うちわ」700枚、建築士会及び保険機構の「ポケットティッシュ」700枚、「空き家対策関連のチラシ」700枚を配布して、会員多数のご協力により広く県民の方々にPRできました。

今後も「公益社団法人滋賀県建築士会」の存在や私たち「建築士」をもっと身近に感じていただけるように工夫しながらPRを行っていきます。

来年は湖北地区内での開催予定です。



協力頂いた会員の皆さん



市民に声を掛ける会員



来訪者と笑顔で会話する会員

日本の伝統を世界に伝えるー古民家再生塾2018ー

湖北古民家再生ネットワーク

日本の伝統を世界に伝える

ー古民家再生塾2018ー

湖北古民家再生ネットワーク

●活動のねらい

長浜市余呉町上丹生で空き家となっている古民家について、外国人も含めた参加者により屋根の葺き替え工事を実施する。また、屋根の葺き替えに必要な茅を刈り取り、次年度以降の葺き替えの材料を調達する。これらの活動を通じて、外国人を含む地域外の人との交流を図るとともに、日本の伝統的な建築技術や知恵などを広く伝える。

●活動の内容と成果

古民家の茅葺き屋根修理体験と茅葺きに利用するスキの刈り取り体験を実施した。茅葺き体験には外国人の参加もあり、日本の伝統的な建築技術を体験したことで、過疎地のインバウンドイベントとしての可能性を開拓できた。

●今後の課題

外国人の参加はあったものの、参加プログラムが茅葺き体験だけに留まり、ツアーとしての地域での面的な広がりがつなげることが課題

●今後の計画

湖北地域の十一面観音や歴史的な数多の戦場などの観光資源と連携した、外国人向けの体験プログラムとしての価値を評価し、魅力を発信したい。

参加者募集チラシ

参加者募集サイト



●活動のねらい

長浜市余呉町上丹生で空き家となっている古民家について、外国人も含めた参加者により屋根の葺き替え工事を実施する。また、屋根の葺き替えに必要な茅を刈り取り、次年度以降の葺き替えの材料を調達する。

これらの活動を通じて、外国人を含む地域外の人との交流を図るとともに、日本の伝統的な建築技術や知恵などを広く伝える。

●活動の内容と成果

古民家の茅葺き屋根修理体験と茅葺きに利用するスキの刈り取り体験を実施した。

茅葺き体験には外国人の参加もあり、日本の伝統的な建築技術を体験したことで、過疎地のインバウンドイベントとしての可能性を開拓できた。

●今後の課題

外国人の参加はあったものの、参加プログラムが茅葺き体験だけに留まり、ツアーとしての地域での面的な広がりがつなげることが課題

●今後の計画

湖北地域の十一面観音や歴史的な数多の戦場などの観光資源と連携した、外国人向けの体験プログラムとしての価値を評価し、魅力を発信したい。

北村李軒邸の調査と報告書の作成

李軒隊

北村李軒邸は、滋賀県長浜市鳥羽上北町に所在する江戸時代の在村医の「住宅」兼「診療施設」である。江戸時代の近江の村々には、在村医がおり地域医療に当たっていたことが知られている。本邸は在村医の主屋や診療施設が、往時の状態のまま保存されており、県内では類を見ない貴重な建造物群である。主屋は文政十年（一八二七）の棟木墨書があり、待合棟は慶応四年（一八六八）の棟札がある他、診察室棟・病室棟・看護棟等が敷地内に建ち、屋敷構え全体が文化財と言える。

さらに、初代の李軒は地方絵師として知られ、京四条派の絵師・松村景文に師事し、長浜曳山祭の曳山の楽屋襖にも作品を残す程の腕前であった。邸内には自身の作品はもとより、交流があった文人たちの書画が今も保存されており、江戸後期における当地の知識階層の文化活動を知り得る。この点から言えば、この李軒邸は在村の美術館とも言えよう。

この建造物群の保存について、建築士、地域づくりプランナー、表具師、長浜市学芸員、それに地域住民が集まり、平成二十八年十二月に「李軒隊」を組織した。この組織により、残された李軒邸の文化財について調査・研究を進めることにした。また、地域住民に建造物群や敷地全体の保存について理解を得るため、邸内の書画を展示する特別公開を、平成二十九年・三十年の夏に1日ずつ行なった。

調査は鳥羽上村全体を含む歴史、建造物、庭園、襖や屏風に記されたり、描かれたりした書画について約二年間行なわれ、その間「李軒隊」では合計7回の勉強会を開催し、調査分野間の情報交換や、鳥羽上町住民への説明を行なってきた。

今回、「公益社団法人 滋賀県建築士会」の助成を受けて、その調査成果を一冊の報告書として刊行することにした。今後も北村李軒邸は、所蔵者によって大切に保存・活用されていくと思うが、その活用方法についても若干の提案を最後に記した。保存・活用にあたっては、将来的に国や地方公共団体からの文化財指定・選定などを受ける道もあり得るが、その基礎資料ともなり得る形で編集したつもりである。李軒邸が「地域の宝」として未来永劫伝えられる一助に、本書が役立つことを望んでいる。



令和元年第29回全国女性建築士連絡協議会
参加報告

◆全体報告

2019年7月13、14日の2日間、第29回全国女性建築士連絡協議会は東京で開催されました。滋賀県からは、5人が参加しました。

今年度の大会テーマは、「未来へつなく居住環境づくり」－和の伝統技術の継承と創造－です。人々のライフスタイルが近年変化する中、地域の環境に適した伝統的な住まいに暮らす人々が減り続け、日本の住まいで培われた和の空間要素がなくなりつつあることを危惧し、和の伝統文化を改めて捉え直し、これからの居住環境づくりに活かしていきたいとの考えです。有限会社原田左官工業所の原田宗亮氏に、「左官技術の継承と創造について」



会場で集合写真

と「新たなプロの育て方」について講演していただき、講演後は、原田左官工業所を経て独立し、活躍されているmarumo工房の金澤萌氏も加わってのトークセッションが行われました。原田氏は、建築業界のダイバーシティを推進し、若い人や女性職人の採用、育成に力を入れておられます。厚みの変化で様々な表現が出来る左官、従来の職域に留まらず、多方面への進出を試み、技術習得方法も、今の時代に合わせた方法として、モデリング訓練をさせる等、色んな工夫をされています。見習工から職人へのステップを4年に定め、卒業すれば一人前の職人に認められ、お披露目を開きみんなで祝います。次へのステップを見据えるための区切りを大切にするそうです。育児休暇制度の導入等、働く環境改善にも取り組まれています。金澤さんは、自分の感性で、仕上・色彩等変化に富んだ表現が可能な左官業に引き付けられ、結婚・出産・育児を経ながらも左官業を続けているお話は興味深く聴かせて頂きました。また、三井所会長、岡本副会長のご挨拶の中に込められた、「女性建築士への期待」に襟を正す思いになり、社会情勢の変化が激しく、災害等が多く発生している昨今、私達に出来る事を見据え、スキルアップやキャリアアップの必要性も強く感じ、この学びが多岐に展開できればと思いました。

◆F分科会「子供と住環境」報告

F分科会「子供と住環境」に参加しました。参加者は25名でした。次世代を担う子供達に、木を使用した住教育の活動を続けている福井県建築士会女性委員会と、5年前から福井県の事例を学び発展させている和歌山県建築士会女性委員会の発表でした。

まず福井県は、「伝統的な建築素材に触れる事で得られるこどもたちの気づき」をテーマに、小学校5、6年生を対象に授業2時限分の時間で「出前事業」に取り組んで来られました。1限目には家が出来るまで・木の生い立ちなど建築に関連する講義、休み時間には実際に6種類の木を五感で味わい、2限目には木の時間割を作成します。続けながら見えてきた課題は、予算の確保・開催場所の確保・人材の確保だそうです。

続けていくことの難しさと大切さを実感しつつ、毎回最後に書いてくれる子供達からの感想が励みになっているという活動報告でした。

次に和歌山県は、5年前に福井県の先進的な住教育の活動を学ばれ、それから3年後の、ある公益社団法人との共同事業で親子木工体験教室の開催がきっかけとなり、事業を進めて来られました。地元の木材を使用することにこだわり、地元の製材業者・家具屋・メーカーにも協力を得て、今年6月で3回目となる親子木工体験教室では、回を重ねるごとに反響は大きいとのこと。女性委員会で工夫して手作りされた紙芝居を実際に実演して下さり、女性委員会が一丸となって取組んでいる様子が伺えました。木の国に暮らす建築士として、住教育や木工活動を通し、県の財産である紀州材をどのように伝えていくか、また、建築士という仕事をどのように知ってもらうか、今後も課題を見据えて発展していきたいという力強い発言でした。県面積の1/2の森林を持つ滋賀県でも見習うことが多いなと感じました。



紙芝居を実演する和歌山県建築士会女性委員の皆さん

◆G分科会「高齢社会と住まい」報告

G分科会「高齢社会と住まい」は、岐阜県建築士会女性委員会の発表でした。

2018年10月現在、高齢化率27.7%。2025年には30%を超えると予想されています。待ったなしの高齢社会の対応に向けて感心は高く、参加者も40人弱という大人数となりました。平成12年に介護保険制度における住宅改修が開始されてから、まもなく20年が経とうとしている中、平成28年に岐阜県建築士会では、「福祉まちづくり部会」を立ち上げ、高齢者が住み慣れた自宅でよりよい生活を継続するために、住まいの専門家である建築士が関われることは何か。と、活動を始めたそうです。まだまだ知名度は低いですが、いろいろな取り組みを行い、「福祉まちづくり」の周知に力を入れて来られた中、少しずつ相談事例も増えてきたそうです。これからは、子供からお年寄りまで、わかりやすく親しみやすい方法として、「住み慣れた家でくらし続けるには～転ばぬ先の手摺のお話～」を人形劇で説明し、啓発活動を行って行かれるそうです。人形劇の実演もして頂きました。一歩ずつ歩み始める事は大事な事ですが、待ったなしの状況が迫ってくる中、スピードアップの必要性をもひしひしと感じます。介護福祉の世界と建築士の間で、情報交換、協力体制の確立を充実させ、互いに協力しあった支援ができるよう展開させていければと思いました。



G分科会 コメンテーターの発表

滋賀職能大からのお知らせ



コースNo.	コース名	受講料	定員	実施予定日※
CH031	在来木造住宅設計実践技術<意匠設計編> New	¥8,500	10	8/31(土)、9/7(土)
CH051	実践建築設計2次元CAD技術<フリーウェア編>(使用ソフト=JW_CAD)	¥7,000	10	9/4(水)、9/11(水)

講座内容等については、「滋賀職能大」で検索、「在職者・事業主の皆様へ」からご確認ください。下記QRコードもご活用ください。



各講座ともCPD認定プログラム申請コースです。
お申し込みは各コースとも開始日の1カ月前までです。
お早めにお申し込み下さい。
開始日1カ月前未満で受講を希望される場合は下記学務
援助課へお問い合わせください。

「オーダーセミナー」のご相談を承ります。

職場やグループ単位での独自研修会「オーダーセミナー」の企画立案のお手伝いをいたします。下記「学務援助課」までお問い合わせください。

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
〈厚生労働省所管〉近畿職業能力開発大学校附属
滋賀職業能力開発短期大学校(滋賀職能大)
www3.jeed.or.jp/shiga/college/

〒523-8510 滋賀県近江八幡市古川町1414

学務援助課

TEL : 0748-31-2254
FAX : 0748-31-2255

地区別 会員数 令和元年 7月1日現在	支部	大津	湖南	甲賀	湖東	彦根	湖北	高島	湖西滋賀	計
	6月	207	154	81	110	87	136	65	24	864
	7月	207	154	80	108	87	136	65	24	861
	差引	0	0	▲ 1	▲ 2	0	0	0	0	▲ 3

8月の暦

1 木 先勝 青年委員会	11 日 大安 山の日	22 木 仏滅
2 金 友引	12 月 赤口 振替休日	23 金 大安
3 土 先負	13 火 先勝	24 土 赤口
4 日 仏滅	14 水 友引	25 日 先勝
5 月 大安	15 木 先負 事務局「夏期休暇」	26 月 友引
6 火 赤口	16 金 仏滅	27 火 先負
7 水 先勝 四役会 理事会	17 土 大安	28 水 仏滅
8 木 友引	18 日 赤口	29 木 大安
9 金 先負 情報広報委員会	19 月 先勝	30 金 友引
10 土 仏滅	20 火 友引	31 土 先負 滋賀県建設界野球大会 開会式・大会第1日
	21 水 先負	

滋賀 万葉の旅 第3回

砂防百年記念碑について

万葉の時代にはヒノキ、スギ、カシの美しい林を持っていた滋賀県田上山は、江戸時代末期になると、「東西に一里半、南北に一里、一本の木もなし」といわれるほど、荒廃がすすんだ。明治5年(1872年) 滋賀県が、続いて明治11年には国が施工する砂防事業に着手し、120年を経過して、ようやく山に緑が回復されたのである。この田上山を流れる瀬田川を含む淀川水系の治水工事は、明治政府がオランダからヨハネス・デレーケなど、治水技師を招きその指導のもとに着手してから、昭和49年(1974年)に100年を迎えた。これを記念して、大津市枝の田上公園入口に「砂防百年」の記念碑が建てられた。先人の努力を讃え、偉大な業績を後世に伝えるものである。(滋賀県砂防課)

